

定義 2.1 (ϕ, Φ) は、次の条件が成立するとき equivariant holomorphic map と呼ばれる：

- (1) $\Phi(g \cdot x) = \phi(g) \cdot \Phi(x)$ ($g \in G, x \in \mathcal{D}$),
- (2) $d\phi \circ \theta = \theta' \circ d\phi$.

$\Phi(\mathcal{D})$ のすべての測地線が、 \mathcal{D}' の曲線とみて測地線となるとき、 $\Phi(\mathcal{D})$ は totally geodesic であるという。

命題 2.1 次は同値。

- (1) $d\phi \circ \theta = \theta' \circ d\phi$,
- (2) $\Phi(\mathcal{D})$ は totally geodesic,
- (3) $d\phi(\mathfrak{k}) \subset \mathfrak{k}', d\phi(\mathfrak{p}) \subset \mathfrak{p}'$.

2.1.2

2.1.1 の記号を使う。 $\mathfrak{g}_C, \mathfrak{k}_C$ をそれぞれ $\mathfrak{g}, \mathfrak{k}$ の複素化とする。 \mathfrak{k} の元 Z で、 $\mathfrak{k} = \{X \in \mathfrak{g} \mid [Z, X] = 0\}$ となるものがある。 $\text{ad}(Z)$ の \mathfrak{g}_C における固有値は $0, \pm i$ である。

$$\mathfrak{p}_{\pm} = \{X \in \mathfrak{g}_C \mid [Z, X] = \pm iX\} \quad (\text{複号同順})$$

とおくと、 \mathfrak{p}_{\pm} は \mathfrak{g}_C の可換部分代数で、 \mathfrak{p}_C に含まれていて、

$$\mathfrak{g}_C = \mathfrak{k}_C + \mathfrak{p}_+ + \mathfrak{p}_-, \quad \mathfrak{p}_C = \mathfrak{p}_+ + \mathfrak{p}_-.$$

G_C, K_C をそれぞれ $\mathfrak{g}_C, \mathfrak{k}_C$ に対応する Lie 群とする。 $P_{\pm} = \exp(\mathfrak{p}_{\pm})$ (複号同順) とおくと、 $G \subset P_- K_C P_+$ となり、

$$P_- \times K_C \times P_+ \rightarrow G_C, \quad (x, y, z) \mapsto x \cdot y \cdot z$$

は G_C の開集合の上への微分同相である。 G の元 g を

$$g = g_- \cdot g_0 \cdot g_+ \quad (g_- \in P_-, g_0 \in K_C, g_+ \in P_+)$$

と表すと

$$G \rightarrow \mathfrak{p}_+, \quad g \mapsto \log g_+$$

により、 \mathcal{D} を \mathfrak{p}_+ の中の有界領域とみなすことができる。 $P_- K_C G / P_-$ は \mathcal{D} 上の複素解析的主バンドルで K_C をファイバーとしてもつ。このバンドルは P_+ によって定義される自然な cross-section をもち、ある保型因子 μ に対応する。 $z \in \mathcal{D} \subset \mathfrak{p}_+, g \in G$ に対し

$$g \cdot \exp z = (g \cdot \exp z)_- \cdot (g \cdot \exp z)_0 \cdot (g \cdot \exp z)_+$$